

A photograph of four students working with bamboo in a rural setting. One student on the left is using a tool to work on a bamboo pole. Another student in the center is seen from the back, also working. Two other students are on the right, one using a long pole. The ground is covered with bamboo poles and shavings. In the background, there are trees and a small building. The text is overlaid on a semi-transparent grey box in the center.

前橋工科大学 4年度活動報告

二本松市 竹ノ内集落

都市地域計画研究室

竹ノ内集落の基本情報



所在地

福島県二本松市竹ノ内集落

人口

144名(令和3年度) 人口の約45%が65歳以上

交通手段

車移動が中心

生活圏

二本松市中心部、福島市の生活圏で買い物をする人が多い

課題

少子高齢化とそれに伴う人口減少
⇒高齢化や地域の担い手不足により、
集落の維持・再生が困難であることが
考えられる

過去3年間の活動

1年目

現地でのフィールドワークやワークショップを通して、地域の魅力発見と課題の整理を行った。



2年目

竹の活用方法として休憩所の制作を行い、地域の人の集まる場として空き家の活用案を考えた。



3年目

変更された空き家の調査に加え、空き家と旧木幡第二小学校の活用案のワークショップを行った。地域の実態と需要を知るためのアンケートを行った。



今年度の活動への流れ

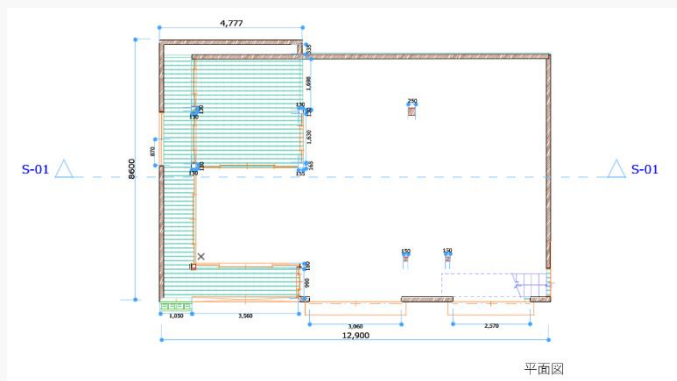
空き家を活用した地域のコミュニティの設営



空き家の清掃



竹を用いた内装の整備



ワークショップでの意見交換



今年度実施した取組みの内容①

竹の伐採と加工

地域の方と空き家の改修で使う竹の伐採を体験した。竹からインテリアにするまでの一連の流れを体験した。特に油抜きから加工までの過程に携わり、モノとして使うまでの苦労が分かった。



実際の作業の様子

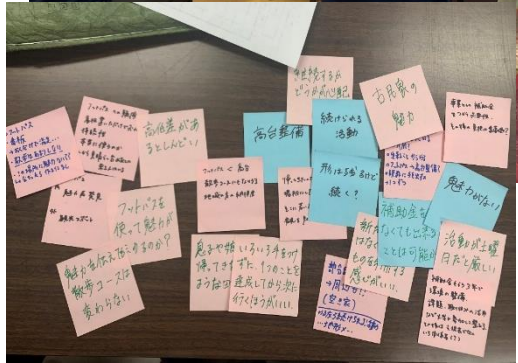


完成形

今年度実施した取組みの内容②

ワークショップ

2025年度のサポート事業に向けた計画書づくりを集落の方、市役所の方、大学生で意見を交換した



地域としての課題

高齢化や地域の担い手不足により、集落の維持・再生に難しさがあると考えられる



① コミュニティ強化

地域の方々が気軽に集まれる縁側+居間づくり

② 関係人口創出

集落外とのつながりの構築，交流を促す機能を組み込む。

- ・段階的に，ソフトの活動を実施する（集落での行事後のお茶会，大学生・近隣児童などを交えた竹や木の加工，貸しスペース機能）

- ・高台に安達太良山を眺めることができる展望台を設置

そば打ち体験



まとめと今後に向けて

地域としての課題

高齢化や地域の担い手不足により、集落の維持・再生に難しさがあると考えられる

私たち大学生としての課題

竹の伐採から加工までの過程で、多大な手間と時間がかかることや、持続可能な取り組みには効率化と地域住民との協働体制の強化が必要



提案

- 地域住民との関係強化
- 空き家活用の具体化
- 竹資源の活用拡大
- 継続可能な仕組みづくり
- 魅力発信と認知向上

今後の展望

次年度以降では、長期的な活動を見据えつつ、ハード面では引き続き集落内の空き家の改修、ソフト面では集落内の体制づくりを進めていく

ハード：

空き家改修

- ・改修基本図面の作成
- ・竹の切り出し

現
地
活
動

- ・竹を使ったインテリアを空き家に設置

現
地
活
動

ソフト：

集落内の体制づくり

- ・協力者の確保（近隣の高校・小中学校，建築関係者）
- ・フットパスのコース検討
- ・物々交換、持ち寄り会の企画，情報発信方法の検討